令和4年度　大館市立田代中学校　学校評価書（　前期　・年度　）

A　学校教育目標

ふるさとに誇りをもち、今と未来を幸せに生き抜く生徒の育成　～共生　凡事徹底　挑戦～

B　本年度の重点目標

1　未来大館市民の育成のために全教育活動を通して人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働力及び自己有用感・自尊感情を育てる。

2　地域社会と関わる学習を通して、ふるさとへの誇りや志をもって自らの生き方について考えることができる生徒を育む。

3　地域貢献活動や地域との協働活動等を通して学校と地域の協働体制を構築し、地域とともに歩む学校づくりを推進する。

C　本年度の経営方針

基本姿勢　「目的」と「手段」を明確にした教育活動の展開

全教育活動を通して育成を目指す資質・能力

1　JAKSを基盤とした人間的基礎力　よりよく生きるための基本的な生活習慣や人間性、社会性を身に付ける

2　主体的実践力　自ら課題を見つけ、考え、判断し、行動し、よりよく解決する

3　共感的協働力　相手を尊重する　仲間と力を合わせて考え、創造する

4　自己有用感・自尊感情　「存在感」を感じる　周りに貢献する　互いのよさを認め合う

未来につながる確かな学力の育成

資質・能力を身に付けるために「見方・考え方」を働かせて学びを深める授業
～教科の本質を外さない、共感的・協働的な学び合いの充実～

※見方・考え方とは…課題を解決するための鍵となる「視点」や「考え方」

Ⅰ　見方・考え方を明確にした授業構想

Ⅱ　共感的・協働的に学び合う授業の充実　樹林タイムD（考えを出し合う）樹林タイムF（考えを深める、広げる）

Ⅲ　学びの質を高めるためのICT活用の推進と個に応じた指導の充実（ＴＴ・少人数指導）

Ⅳ　ＰＤＣＡサイクルを生かした校内研究の充実

未来につながる豊かな人間性と社会性の育成

Ⅰ　ＪＡＫＳを基盤とした人間的基礎力の育成

Ⅱ　主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情の育成

Ⅲ　全ての教育活動を通して行う道徳教育の充実

Ⅳ　いじめ・不登校の未然防止と自立支援のための組織的対応

ふるさとへの誇りや自立の気概を育み、未来につながる「ふるさとキャリア教育」の充実

Ⅰ　郷土愛の醸成と地域貢献力を育む体験活動

Ⅱ　地域のひと、もの、ことと関わる体験・交流活動

Ⅲ　望ましい職業観や勤労観を育む体験活動

Ⅳ　社会における役割や将来の生き方を学ぶ活動

Ⅴ　田代地域学校協働支援チームでの連携・協働

【学校祭での全校合唱「いつまでも」】

【3年ぶりの開催　きりたんぽ祭りでの田っ中ソーラン】

ア 生徒の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分		自己評価Bの評価基準		
	きわめて良好		5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅰ　自主的・自律的な生活

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
明るく心のこもった挨拶をし規律ある落ち着いた生活を送りながら主体的実践力を育もうとしている。 互いに認め合い、協力し合いながら安心した学校生活を送り、豊かな人間性を育もうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	コロナ禍によるマスク生活の影響からか、表情が見えにくくなっている。そのためか自己主張が弱いように見える。あいさつも数年前に比べると元気がないように感じる。授業での発言も元気がないように感じた。もう少し元気があればよい。礼節に関しては地域内で車が止まった時に返礼したり、あいさつも返してくれる子が多いと感じている。
	年度	おおむね良好	良好	コロナ禍によるマスク生活が長くなり、その影響からあいさつの声が聞こえにくくなっていることもあると思われるが、生徒個々の特性に合わせたコミュニケーションの仕方を指導する必要がある。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

時間管理、挨拶・言葉については、90%以上の生徒が肯定的（「4　そう思う」、「3　ややそう思う」）な回答をしているものの、昨年度に比べて4の回答の割合が減少している。TPOに応じた挨拶や言動の質を学級活動や生徒会活動の中で高めていきたい。「自分にはよいところがある」については、昨年度よりも肯定的な回答の割合が10%増加している。各行事や毎日の諸活動を通して生徒が活躍できる場、生徒の頑張りを称揚する場を意図的に設定し、自分の成長を振り返る活動を積み重ねている。体育祭では、一人一人が事前に目標を設定し、活動への意欲付けや事後の振り返りを通して達成感や成長を実感することができた。様々な活動を通してこのような経験を積み重ねることが、生徒の自己有用感・自尊感情の醸成に結び付いていると考える。後期も継続して取り組んでいきたい。

係や委員会活動、学校行事などの取組については、昨年度に比べ、「4　そう思う」の回答が増加している。同学年での活動のほか、多様な他者との交流が可能になる異学年交流（縦割り活動）を実施する中で上級生のリーダーシップや集団でのチームワークを生かしながら目標の達成に向けて取り組むことが、生徒の主体性や共感性、協働力の向上に結び付いた。生徒会テーマである「耀き（かがやき）～はばたけ幸せの未来（さき）へ～」を意識した自治的活動の更なる充実を目指して、引き続き指導・支援に当たっていきたい。

【年度（→次年度）】

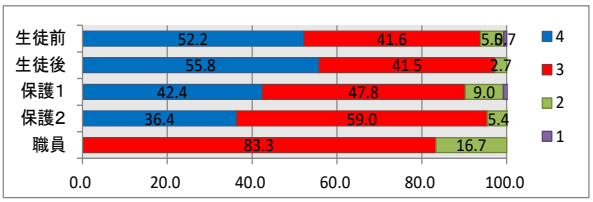
後期は、挨拶や言葉遣いについて、97%の生徒が肯定的な回答をしている。保護者の4の段階は低下したが、3の段階を含めた肯定的な回答の割合は増加した。一方、職員の回答に4の段階がない。来年度は、学校教育活動で身に付けた挨拶や言葉遣いを、地域との関わりの中でも生かされるよう意識付けしたい。「自分にはよいところがある」については、肯定的な回答の割合が86%を超え、生徒の頑張りを認める言葉掛け行うとともに、自分の成長を振り返る活動が有効だった。また、生徒同士が認め合う風土もできつつある。来年度もタイムリーな声掛けと場の設定を心がけたい。

学校祭などの行事への取組を通して、達成感や成就感を得ることができた生徒が増えており、さらには自己有用感や自尊感情にも少しずつ高まりが見られる。これは行事前の目標設定や振り返りによる価値付けを通して一人一人の生徒が責任感をもって活動に取り組み、その分やり遂げたという実感をもつことができたからだと考える。来年度も、行事前の見通しと行事後の振り返りを大切にしていきたい。

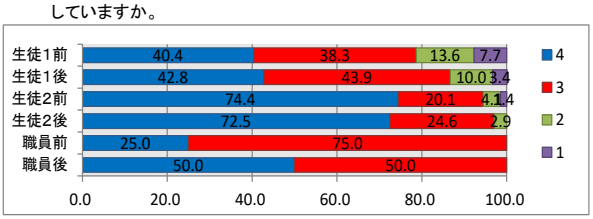
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		自己評価B 後期	
1　JAKS：基本的な生活習慣の確立 TPO：人間的基礎力、共感的協働力の育成	(1)基本的な生活習慣の確立（時間管理、挨拶・言葉遣い、聴く・姿勢、整理整頓）	・樹林ノートを活用した見通しのある生活、風紀委員会による推進活動 ・時と場に応じた挨拶、人の話に傾聴する姿勢や態度の向上→（凡事徹底）	3	3	3	3
	(2)生徒理解とよさを伸ばす関わりによる自己有用感・自尊感情の醸成	・学級、生徒会活動の見届け、称揚と生徒同士が認め合う場の設定→（共生） ・アセス、いじめ調査等のデータを活用・共有した生徒支援	3		4	
	(3)目標の設定と振り返りによる主体的実践力、共感的協働力の育成	・樹林ノート等を活用した、学期や長期休業の目標設定と振り返り→（挑戦） ・目標の実現に向けた、共感的・協働的に高め合う場の設定	3		3	
2　共感的風土の中での活気ある個と一体感のある集団づくり	(4)互いに支え合う個・集団づくり ・学級経営・学級活動	・学年委員会の機能を生かした学年集会の計画と実施 ・目標設定および活動の振り返りの保障と価値付け（ポートフォリオ、樹林N、特活F、キャリアP、キャリアN）	3	4	3	4
	(5)主体的実践力・共感的協働力の育成と学校生活の向上 ・実践的活動　生徒会活動　委員会活動	・生徒会テーマに基づいた日常活動の工夫 ・学校生活の向上を目指すための生徒会活動の充実 ・生徒会活動の地域への発信（学校祭等）	4		4	
	(6)共感的・協働的活動による所属感、連帯感の醸成 ・体育祭、学校祭、合唱コンクール、田っ中ソーラン、地区ボランティア	・全校が一丸となって、活気をもって取り組めるような行事の計画と呼びかけ、実践 ・縦割りの機能を生かした一体感のある活動（体育祭、地区ボランティア）	4		4	

（主なデータ）　生→生徒　保→保護者　職→職員　前→7月　後→12月　4…そう思う　3…ややそう思う　2…あまりそう思わない　1…そう思わない

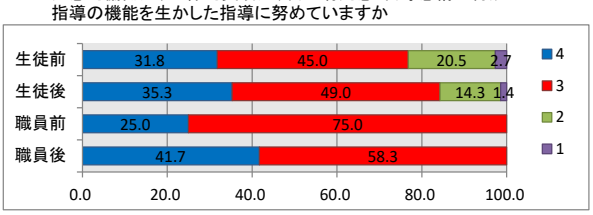
1　生　時や場に応じた挨拶や返事、相手に応じた言葉遣いをしていますか。
保1　お子さんは、学校や地域、部活動で好ましい挨拶ができていると思われますか。
保2　お子さんは、場や相手に応じた言葉遣いができていると思われますか。
職　生徒は時や場に応じた挨拶や返事、相手に応じた言葉遣いをしていますか。



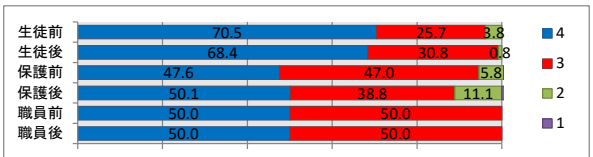
2　生1　自分にはよいところがあると思いますか。
生2　友達や先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。
職　生徒のよいところを認めるなど、自己有用感を高めることができるように指導していますか。



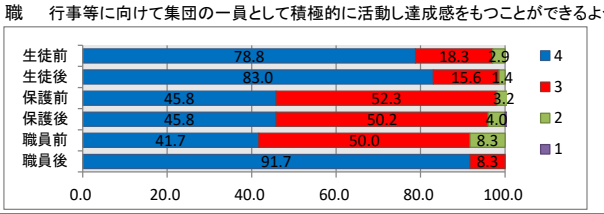
3　生　難しいことでも、失敗や間違いを恐れないで挑戦していますか。
職　共感的協働力、主体的実践力、自己有用感・自尊感情の育成のために生徒指導の機能を生かした指導に努めていますか



4　生　係や委員会活動、給食・掃除当番など、自分の仕事に責任をもって取り組んでいますか。
保　お子さんは、学校行事や委員会活動などに積極的に取り組んでいると思われますか。
職　生徒は、係や委員会活動、給食・掃除当番など、自分の仕事に責任をもって取り組んでいますか。



5　生　学校行事では集団の一員として積極的に参加し、達成感を味わうことができましたか。
保　学校は、学校行事や諸活動で生徒に活躍の場を与えていると思われますか。
職　行事等に向けて集団の一員として積極的に活動し達成感をもつことができるように指導していますか。



■データから見える成果と課題

1　前期に引き続き、多くの生徒がJAKSを意識した生活を送ることができている。後期は、挨拶や言葉遣いについて、97%の生徒が肯定的な回答をしている。一方、職員の回答に4の段階がないことから、相手に伝わる声量や時と場に応じた言動などができるよう更に育てていきたい。

2　「自分にはよいところがある」については、肯定的な回答の割合が86%を超え、更に増加した。日常的に生徒の頑張りに対して認めて褒める言葉掛け行うとともに、自分の成長を振り返る活動を積み重ねることが自尊感情の育成に結び付いてきているのではないかと考える。

3　「失敗や間違いを恐れないで挑戦する」が前期に比べて肯定的回答が増加した。「学校行事では集団の一員として積極的に参加し、達成感を味わうことができた」や「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答の割合の増加が、生徒の挑戦する意欲の向上に結び付

ア 生徒の状況					
自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅱ　思いやりの心・たくましい心

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
集団や社会における人間関係の形成と、よりよく生きるための考えを深め、自己実現を図ろうとしている。	前期	おおむね良好	良好	職場体験や地区ボランティアを通して、貴重な経験を深めている。ふるさとキャリア教育が根付きつつあると感じる。学校が楽しいと答えている生徒が多いのは何よりである。また、夢や目標があると答えている生徒が多いのもふるさとキャリア教育の成果であると感じる。
	年度	良好	良好	田代中学校のよさである縦割り活動において、学年を越えて意見を出し合う場面が見られる。中でも3年生はその模範となって活躍する姿が見られた。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】

今年度も道徳科において、道徳的価値を自分のこととして捉え、物事を多面的・多角的に考える活動を通して、よりよい生き方についての考えを深めることができるような授業づくりに取り組んでいる。何よりも自分の考えを自由に発言できる学級の雰囲気づくりを大切にしている。授業1時間での変容は難しいので、他の様々な教育活動との関連を図りながら長いスパンで指導に当たっている。今後も教育活動全体を通して全職員で道徳教育を行っていきたい。

職場訪問では、学年全体で2か所を訪問し、職場体験では、ペアまたは3人のグループで希望する職場へ訪問し、職業観や勤労観を育んだ。特に職場体験では、実際に仕事を体験する活動を通して改めて働くことの大変さや、やりがいについて学ぶことができた。

ふるさととのかかわりについて、肯定的に捉えている生徒が多いことから、地区ボランティアやふるさとキャリア教育において、生徒のアイディアを生かし、より実践的な活動になるようにしていきたい。そのために、課題設定や活動計画の立案、活動及び振り返りのサイクルを積み重ねながら今後の活動をつないでいきたい。また、各活動における異学年交流のよさを生かしながら、リーダーシップやチームワークなどを磨く場の一つにしていきたい。

【年度（→次年度）】

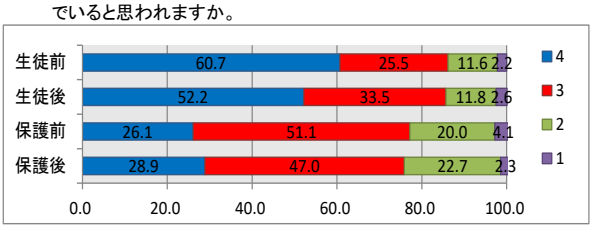
「友達と互いに認め合い、協力し合いながら向上」は前期より減少したが肯定的な回答が92%であった。道徳、学活を含め教育活動全体を通して意識を高めていきたい。道徳の授業ではワークシートの個人の考えをタブレットで全員で共有するなどICTを効果的に活用することができた。また、様々な視点から自分の考えを述べたり、友達の考えを参考にしたりしながら道徳的な価値についての考えを深める授業も行われている。相手の発言に対して共感したり、切り返したりする力が備わってきている生徒もいる。

前期と同様に、「ふるさとキャリア教育」や「地域貢献」について肯定的な生徒が多くなっている。これは総合のまとめとして実施した「未来を語る会」において、地域との関わり方や自己の将来の生き方について様々な意見交流を行う中で、自分の考えを深めることができたからだと考えられる。同じ学年のみならず他の学年の生徒の考えに触れることも貴重な機会であった。異学年交流は、今後も継続していきたい大切な活動である。

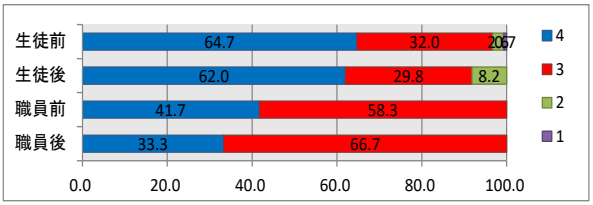
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		自己評価B 後期	
3 よさの伸長と豊かな心と自立心	(7)自他を認め、互いに協力し合う生徒の育成 ・教育活動全体を通じた道徳教育と「考え、議論する道徳」の充実	・学校と学年の重点目標を位置付けた計画と実践 ・創意を生かした教育活動と関連付けた道徳の実践 ・活動の振り返りの時間の設定と価値付け（樹林F、キャリアN、キャリアP等の活用）	3	3	4	4
	(8)郷土を愛し、交流・貢献する生徒の育成 ・職場訪問、職場体験、キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動等	・職場訪問、職場体験の充実 ・キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動などを通した郷土愛の醸成 ・地区ボランティア活動、地域行事や子どもハローワークへの参加の推進 ・活動の振り返りの設定と価値付け（樹林N、特活F、キャリアP、キャリアN）	3		4	

（主なデータ）

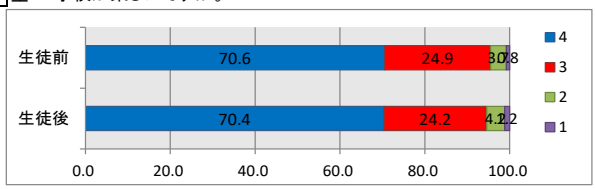
1 生　夢や目標をもって生活をしていますか。
保　お子さんは、学校での学習や生活において目標をもって取り組んでいると思われますか。



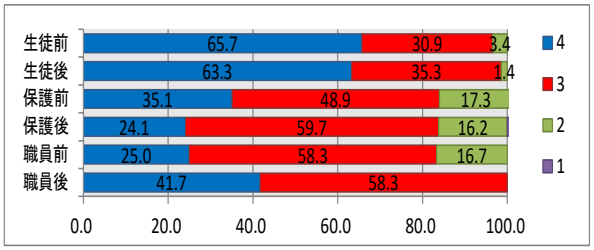
2 生　友達と互いに認め合い、協力し合いながら向上することができていますか。
職　互いに認め合いながら協力し合うことができるように指導していますか。



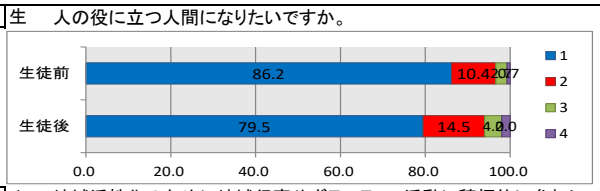
3 生　学校が楽しいですか。



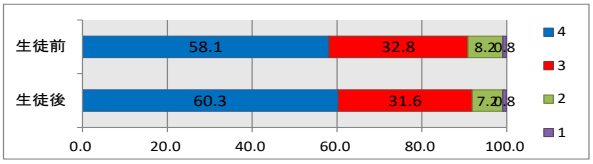
4 生　ふるさとキャリア教育を通して、地域のよさを感じたり、自分の生き方について考えたりしていますか。
保　お子さんは、ふるさとキャリア教育を通して地域のよさを感じたり、自分の生き方について考えたりしていると思われますか。
職　ふるさとキャリア教育の理念を生かした教育活動を推進していますか。



5 生　人の役に立つ人間になりたいですか。



6 生　地域活性化のために地域行事やボランティア活動に積極的に参加していますか。又は参加したいですか。



【2年　道徳　信頼　友情】

【3年　道徳　郷土愛】

【キャリア講話　本校OB 石山　拓真氏】

【田代と自分の未来を語る会】

■データから見える成果と課題

1　前期に引き続き、「ふるさとキャリア教育」や「地域貢献」について、肯定的に捉えている生徒が多い。前期に行った職場訪問や職場体験、地区ボランティア、田っ中ソーラン演舞などの活動とキャリア講話や道徳の授業、田代と自分の未来を語る会を関連付けて考えることを通して、地域への思いや自分の生き方についての考えを深めることができた。

2　「学校が楽しい」について、前期と同様に肯定的回答の割合が高い。引き続き、「共生、凡事徹底、挑戦」を意識した学校生活を送り、全ての活動を通してよりよく生きるために必要なことについて考え、実践することができるような道徳教育の充実を図っていきたい。

3　「夢や目標をもった生活」の4の段階が前期に比べて減少している。引き続き、生徒の実態を踏まえ、一人一人の目標設定と日々の実践に向けた支援を行っていきたい。

ア 生徒の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	自己評価Bの評価基準		
きわめて良好	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
良好	4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
おおむね良好	3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
やや不十分	2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
努力を要する	1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅲ 基礎学力

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付け、共感的･協働的な学び合いを通して「おおだて型学力」を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	授業を見合う会（樹林ツアー）などの新しい取組を始めるなど、教員の課題意識が高い。授業参観では活発な意見を引き出し、生徒を引きつける授業も見られた。今後の指導にも期待したい。その反面、教員の多忙化につながらないよう、無理のないように取り組んでもらいたい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	先生方の授業づくりに取り組む工夫、意欲は、これまで同様高いものがある。今後は各種学力検査等の分析を活かし、総合的な学力の底上げを期待したい。

自己評価の概要と学校の改善策

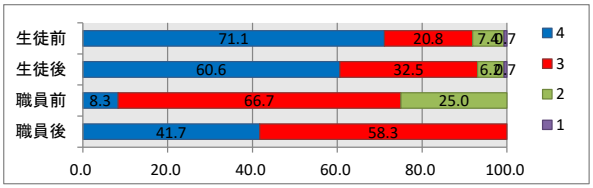
【前期（→年度）】
学習委員会の日常活動や学習オリエンテーションの実施が、生徒の学習習慣の確立と主体的に学習に取り組む態度の育成に結び付いている。授業を見合う会（樹林ツアー）や校内研究会を定期的に行うことで、研究主題に基づく授業改善への意識が高まってきたが、全体としては取組に対する肯定的な回答の割合が昨年度よりも減少している。特に、視点（A「これまでの学習とのつながり」、B「次の授業や未来へのつながり」、C「社会や生活とのつながり」、D「仲間の考えとのつながり」）に沿った振り返りを行って、学習への意欲を引き出したり、学びの意義や価値を実感させたりすることに関して課題がある。今後は、学び合い「樹林タイムD･F」と、視点（つながり）に沿った振り返りを充実させるために、各教科で足並みを揃えていく。夏季休業中の校内研修会で確認したように各自が課題意識をもち、授業改善に向けての具体的な改善策に取り組んでいきたい。

【年度（→次年度）】
授業に関する生徒のデータを前期と年度で比較すると、4が若干減少しているが、肯定的な回答の割合は前期をわずかに上回った。2学期も学習委員を中心に授業の目標や反省を学級全体で確認することで学習意欲の向上を図ってきた。また、授業では樹林タイムD･Fを日常的に行い、意見を出し合って深めるスタイルの確立が生徒の主体的な学習の充実につながってきている。前時の振り返りを活用したり、必要感のある課題設定を吟味したりして、共感的･協働的な授業の実践につなげていきたい。
職員の授業改善に対する意識の向上が見られる。「必要感のある学習課題やめあてを設定し見通しをもたせる」「学び合いの場の『樹林タイムD･F』設定と教師のコーディネート」「『つながり』を視点とした振り返りの設定」に継続して取り組んでいきたい。特に、「学習課題やめあての設定」について、前時の振り返りや既習事項を生かすなど、生徒の課題意識を高める導入の工夫を行っていきたい。

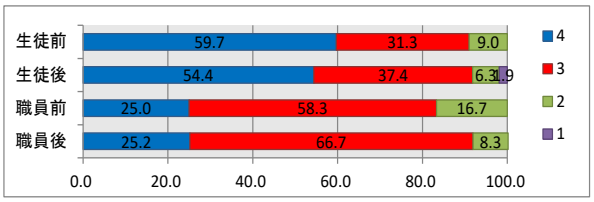
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		自己評価B 後期	
4 一体感と活気のある学習活動	(9)基本的な学習習慣の確立と主体的な学習の充実	･「田代中学習の約束」を基盤とした基礎･基本の定着 ･学習、ICTオリエンテーションによる生徒の学習意欲の向上と授業を見合う会、研究授業等による授業改善の実施 ･学習委員会による学習状況の評価と課題改善に向けた活動の充実	3	3	3	3
5 授業改善への取組	(10)共感的･協働的に課題を追究する授業実践	･各教科で働かせる「見方･考え方」や育む資質･能力を明確にした単元（題材）構想と授業の組み立ての工夫 ･樹林タイムD･Fの実施と、学び合いを深める教師のコーディネート ･自己の変容や学びを自覚させるためのつながりを意識した振り返り	3		3	
6 諸検査の分析と活用	(11)学習状況調査等の分析と指導方法の改善	･各種テストの分析と適切な回復指導 ･形成的評価を生かした学習状況の把握と回復指導	3		3	
7 教職員の研修	(12)研修及び授業研究会を通した指導力の向上	･校内研修会の充実と研修資料の共有 ･教科を越えて研修し合う授業研究会 ･授業を見合う時間の設定	3		4	

（主なデータ）

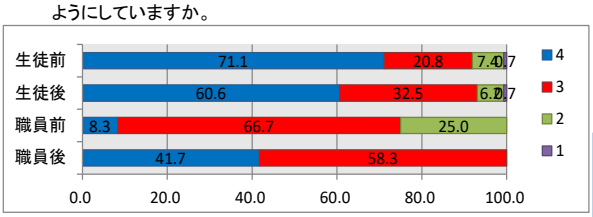
1 生 授業では学習課題やめあてを立てて取り組んでいますか。
職 必要感のある学習課題･めあてを提示し、ゴールや解決の方法に対する見通しをもたせていますか。



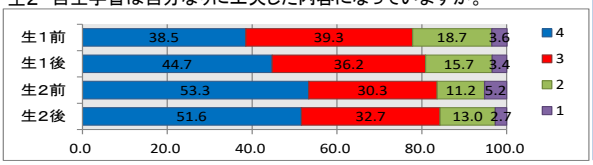
2 生 授業や集会などでは、ペアやグループなどでの学び合いを通して考えを深めたり、広げたりすることができていますか。
職 ペアやグループ、全体等の学び合いの場（樹林タイムD/F）を設定し、考えを深めたり、広げたりすることができるように視点（目的、資料等）を示したり、発問を工夫したりするなどしてコーディネートしていますか。



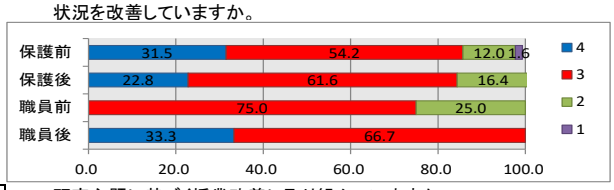
3 生 授業では、学習課題･めあてに沿ってまとめをし、振り返りをすることができていますか。
職 学習課題･めあてを踏まえ、視点（つながり）に沿った振り返りを行い、次の学習への意欲や見通し、学びの意義や価値を実感できるようにしていますか。



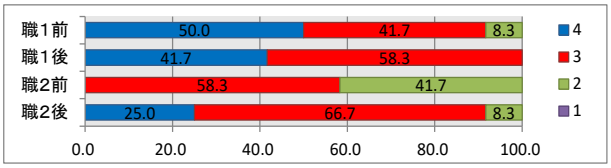
4 生1 自分で計画を立てて勉強していますか。
生2 自主学習は自分なりに工夫した内容になっていますか。



5 保 学校は、少人数学習、ティームティーチング、個別指導など、生徒の学力向上のための工夫をしていると思われますか。
職 個別指導、学習相談日、単元の評価問題等の補充的指導を充実させ、学習状況を改善していますか。



6 職 研究主題に基づく授業改善に取り組んでいますか。
職 諸検査の結果を指導に生かしていますか。



【学び合い（樹林タイムD･F）】

【職員による授業を見合う樹林ツアー】

【県学習状況調査（12月）の結果】県平均を100とした場合の本校の割合

科目	国語	社会	数学	理科	英語	合計
1年県比	101	93	102	104	93	99
2年県比	105	88	98	97	99	98

■データから見える成果と課題
1 前期と同様に、授業での学び方に関わる学習オリエンテーションや学習委員会による日常の活動が、生徒の基本的学習習慣の確立に結び付いている。
2 授業を見合う樹林ツアーや研究実践に関わる校内研修会、授業研究会を通して職員の授業改善に対する意識が高まり、実践に結び付いてきている。
3 学習課題やめあての設定ついての生徒の肯定的回答の割合が前期に比べて減少した。前時の振り返りや既習事項を生かすなど、課題意識を高める導入を更に工夫していきたい。
4 共感的･協働的な学び合い（樹林タイムD･F）、まとめや振り返りについての生徒の肯定的回答の割合は高い傾向にあるが、4の段階を更に伸ばしていくことで、分かる、できる授業の充実につなげていきたい。

ア 生徒の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分		自己評価Bの評価基準		
	きわめて良好		5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅳ 健康と体力

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
食や運動を通して健康や体力への関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期	おおむね良好	良好	今年度前半の部活動での活躍は評価に値する。指導に当たる先生方の協力があってのものだと考えている。メディアコントロールに関する大きな問題はないようだが、情報モラル教室は保護者も参加しやすい機会を設けるなど、情報発信及び対策をしてほしい。
	年度	おおむね良好	良好	生徒たちは目的意識を高く持ち、部活と勉強の両立を図りながらがんばっている。一方では、表面化しにくいいじめ等の問題に対して、現状をいち早く把握し対応してほしい。

自己評価の概要と学校の改善策

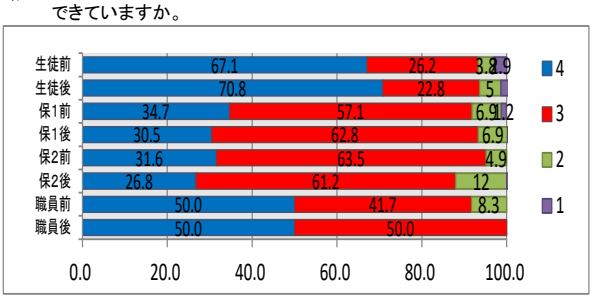
【前期（→年度）】
相談できる相手の有無については、昨年度よりも肯定的な回答の割合が8%増加した。しかし、生徒・保護者・教員が2や1の段階の回答をしているということは、「相談することができていない」、「必要な支援をすることができていない」というケースがあることが考えられる。引き続き、共感的な人間関係を養うための指導や支援に努め、相談活動等を充実させたい。
部活動の参加については、昨年度よりも4の回答の割合が増加し、目標をもって意欲的に取り組んでいる生徒が多い。生徒一人一人の自己実現につながるよう、保護者の理解や協力を得ながら運営に当たっていきたい。4分の1の教員が2の段階を回答していることから、指導方針や主担当と副担当の役割を確認するなどしながら、指導や支援についての工夫・改善に努めたい。
情報社会における正しい判断や望ましい生活習慣を育むために、5月に全校生徒及び保護者を対象に情報モラル教室を実施した。保護者が参加しやすい方策を検討するとともに、情報モラルについては、継続した指導を行っていきたい。特に心配な生徒には、個別の指導を意図的に行っていきたい。

【年度（→次年度）】
年度を通して、相談できる相手の有無について肯定的な回答の割合が増加した。それによって、周りの生徒から情報が寄せられ、教師が即時に対応することができたケースがいくつかあった。しかし、保護者の「問題行動に素早く対応し、いじめ等の未然防止に取り組んでいると思われますか。」の設問では肯定的な回答が低下した。来年度は指導した内容について、関係する保護者に丁寧に報告し、可能な限りその経過についてもお知らせしたい。
部活動については、秋季総体までは高い意識で取り組めているが、オフシーズンになると意識が低下しがちである。来年度は、節目の時期にキャプテン会議や各部のミーティングを意図的且つ計画的に実施し、目的意識を持続させられる運営を目指したい。
保健便りや生徒指導便りの配付のほか、保健委員会を中心に望ましい生活習慣の確立を目指した啓発活動を行った。来年度は、生徒がより自分事として捉えられるよう、より効果的な伝え方について吟味していきたい。

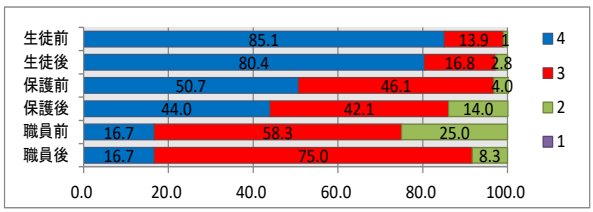
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		自己評価B 後期	
8 保健活動の状況	(13)心と体の健康に向けての取組	・教育相談の実施と職員間の情報共有・チーム対応 ・望ましい生活習慣の確立を目指した保健指導の取組（メディアコントロールアンケート等の活用） ・健康意識の向上を期した掲示環境の整備	3	3	3	3
9 部活動の状況	(14)主体的実践力・共感的協働力を育てる部活動	・目標の実現に向けた主体的、共感的・協働的な活動への指導・支援と見届け ・人間的基礎力（JAKS）育成	3		3	

（主なデータ）

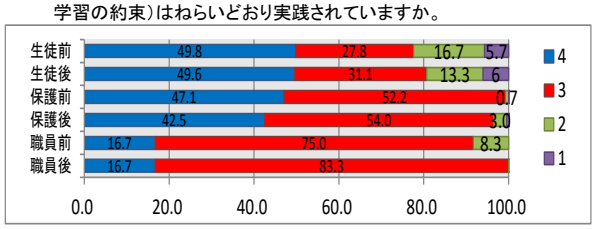
1 生 悩み事があったり、困ったりしたときに相談できる人はいますか。
保1 学校は、生徒や保護者の悩みや相談に耳を傾け、誠実に対応していると思われますか。
保2 学校は、問題行動に素早く対応し、いじめ等の未然防止に取り組んでいると思われますか。
職 生徒の様子を細かに観察し、問題がある場合は素早く誠実に対応できていますか。



2 生 部活動へは、自分の目標に向かって意欲的に参加できましたか。（1、2年生）
保 お子さんは、部活動に目標をもって意欲的に取り組んでいると思われますか。
職 部活動において、生徒の目標実現を支援していますか。



3 生 「早寝・早起き・朝ご飯」など望ましい生活習慣が実践できていますか。
保 学校は、保健便りや生徒指導便りを通じて生活習慣改善のための情報を発信していると思われますか。
職 小中連携にかかる共通実践事項（自立プラン、目指す授業の形、学習の約束）はねらいどおり実践されていますか。



【保健室掲示】

【保健委員会による啓発活動】

【大北秋季総体報告会】

【学校祭 吹奏楽部演奏】

■データから見える成果と課題

1 相談できる相手の有無について、4の段階の割合がやや増加した。定期的な教育相談のほか、機会を捉えた教育相談を行うことで、生徒の不安や悩みなどを職員間で共有し、解決に向けた支援を行っている。引き続き、日々の活動を通して共感的な人間関係づくりや心の居場所づくり、一人一人に寄り添ったきめ細かい指導や支援を行い、肯定的回答100%を目指していきたい。

2 保健便りや生徒指導便りの配付のほか、保健委員会を中心に望ましい生活習慣の確立を目指した啓発活動を行った。生徒の肯定的な回答の割合がやや増加した。引き続き、家庭との連携を密にして、毎日の心身の健康状況を把握し、望ましい生活習慣の確立に向けて組織的に取り組んでいきたい。また、情報モラルについては、継続的な指導を行っていきたい。

3 部活動については、97%の生徒が肯定的な回答をしている。目標をもって毎日の活動に取り組んでおり、心身ともに成長を続けている生徒が多い。引き続き、一人一人の自己実現につながるよう、保護者の理解や協力を得ながら運営に当たっていきたい。

ア 生徒の状況					
自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅴ　組織運営

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
教職員が学校教育目標及び重点事項等を踏まえた主体的、組織的な取組を行っている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	新しい学校教育目標を設け、常に意識して取り組んでいる。次年度への引継ぎを計画的に進めてほしい。先生方の課題意識が高いので、後期に期待したい。
	年度	おおむね良好	良好	学校教育目標が明確で、教師間の連携も図られている。教師の職務に対する意識は日頃から高いものがあると感じている。主なデータの評価も高く、その成果が現れている。

自己評価の概要と学校の改善策

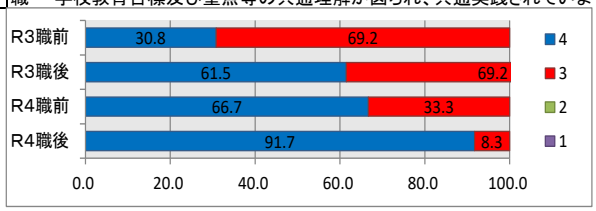
【前期（→年度）】
今年度、学校教育目標を新たに「ふるさとに誇りをもち、今と未来を幸せに生き抜く生徒の育成」とした。学校教育目標の具現化に向けて、生徒会テーマ（「耀き（かがやき）～はばたけ幸せの未来（さき）へ」）の設定や行事の運営、学年部や指導部の取組など、学校全体が一体になって日々の教育活動に取り組んでいる。学校教育目標及び重点等の共通理解、共通実践については、昨年度に比べて4の段階が30パーセント以上増加した。一方で、各教育活動の評価と改善、生徒指導の機能を生かした指導（生徒に自己決定の場を与えること。自己存在感を与えること。共感的な人間関係を育成すること。）については、改善の余地がある。コロナによる活動の制限もある中で、生徒の実態に沿った有意義な活動となるよう学年部、指導部共に連携を図りながら取組の充実を図っていきたい。
見通しのもてる年間計画・月計画・週計画の作成のために、職員間の連携を密にしていきたい。そのためには、担当同士の引継ぎ、また、行事の反省と来年度の方向性など、今年度中にまとめておくようにしたい。

【年度（→次年度）】
前期に比べて、職員の学校教育目標や重点に関わる4の割合が25%増加した。互いの共通理解が図られ、実践しようとする職員の意欲が数字に表れていると考える。しかしながら、生徒が身に付けるべき挨拶や整理整頓などの資質・能力については十分とは言えない面がある。引き続き、全職員が同じ方向を向いて、日々の教育活動に当たっていきたい。ふるさとキャリア教育について、生徒アンケートでは肯定的な回答が多かった。特に3年生の評価が高く、リーダーシップをとって地域に貢献した実感と達成感が表れていると捉えている。このような先輩の姿がよい伝統となるよう、振り返りで生徒の活動を価値付けていきたい。また、活動を充実させるためには、時間の保障が大切であると考える。そのために、目標や目的にもう一度立ち返った上で、教育課程を工夫していきたい。年間計画、月計画、週計画についても、早めに提示し、調整を図っていきたい。

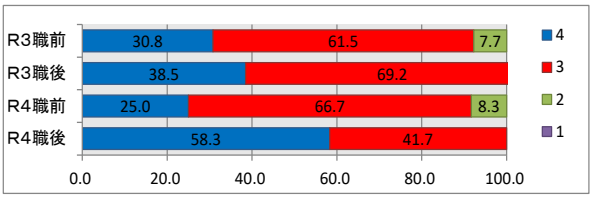
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		自己評価B 後期	
10　組織的な学校運営	(15)学校教育目標・目指す学校像・生徒像実現への取組 （共通理解・共通実践・凡事徹底・組織力を生かしたチーム対応）	・目標の実現のための三つの架け橋（確かな学力の育成、豊かな人間性と社会性の育成、「ふるさとキャリア教育」の充実）に基づく共通実践 ・目的と手段を明確にした教育活動の展開と全ての教育活動を通して一人一人が身に付ける資質・能力（JAKSを基盤とした人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情）の育成 ・目標の実現のための学校評価等の活用と改善	3	3	3	3
11　教育課程の編成と実施・改善	(16)社会に開かれた創意ある教育課程の編成	・「ふるさとキャリア教育」を充実させる総合・特活・各教科との関連を図った計画 ・見通しのもてる年間計画・月計画・週計画の作成と運用	3		4	

（主なデータ）

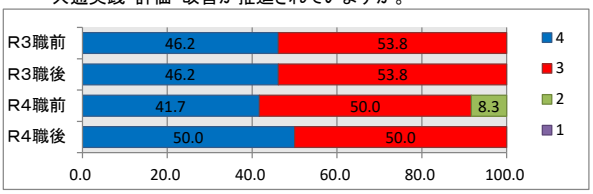
1 職　学校教育目標及び重点等の共通理解が図られ、共通実践されていますか。



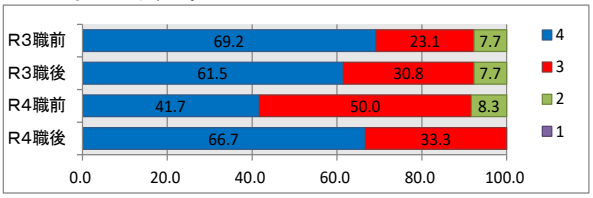
2 職　学校評価や学校行事等の評価・改善は適切に行われ、かつ目標達成や課題の改善がなされていますか。



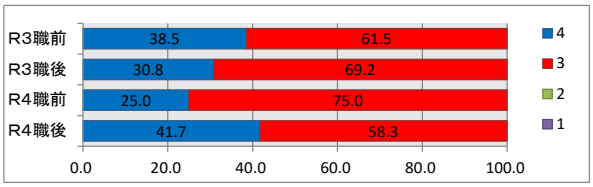
3 職　各指導部長や学年主任、各担当などがリーダーシップを発揮し、共通実践・評価・改善が推進されていますか。



4 職　月行事予定や週計画（じゅりん）は教育活動の見通しをもてるものになっていますか。



5 職　共感的協働力、主体的実践力、自己有用感・自尊感情の育成のために生徒指導の機能を生かした指導に努めていますか。（R4は新たに主体的実践力を追加）



【JAKSの学級での振り返り】

【早口市日での田っ中ソーラン】

■データから見える成果と課題

1 「学校教育目標及び重点等の共通理解、実践」について、職員の4の回答の割合が増加した。前期に比べて、学校教育目標や重点に関わる職員間の共通理解が図られた。

2　各指導部長や学年主任、各担当などがリーダーシップを発揮し、目的と手段を明確にしながら、各教育活動の計画、実践、評価、改善の過程を重視して取り組んできた。指導部内、学年部内の横の連携とともに、指導部間、学年間の縦の連携を強化することで組織力の一層の向上を図りたい。

3　見通しをもった月行事予定、週行事予定については、肯定的な回答の割合が増加した。引き続き、職員の声を生かし、見通しをもった教育活動の推進に結び付くよう工夫・改善を図りたい。

イ 学校運営の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分		自己評価Bの評価基準		
	きわめて良好		5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

Ⅵ 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	おおむね良好	良好	学校報やブログでの情報発信が充実している。各種大会の結果が速報でメール配信されるなど、保護者の評価も高い。ただ、休日での仕事になることもあると思われるので、健康と仕事のバランスをとりながら進めてほしい。
	年度	おおむね良好	良好	連絡メールによるすばやい情報の連絡により、事前にトラブルを回避することができた。ブログでは子どもたちの活躍する姿が配信されており、ありがたく感じている。

自己評価の概要と学校の改善策

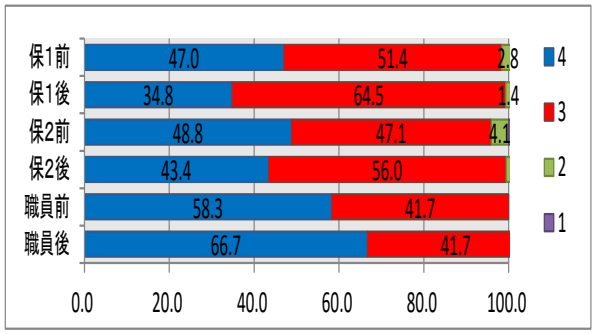
【前期（→年度）】
教育方針や学校行事における生徒の活動の様子については、学校報や学校HP、学校ブログ、連絡メール等で適時情報発信をしてきた。保護者の回答は昨年度よりも「4　そう思う」の割合が増加している。今後も生徒が活躍している様々な場面を捉え、タイムリーに情報発信していきたい。
地域・保護者との連携については、保護者の回答は昨年度よりも「4　そう思う」の割合が増加している。PTA夕焼け奉仕作業や町内ごとに行われている地区ボランティアではたくさんの保護者や地域の皆様に御協力いただいており、学校と地域・保護者が連携・協働して教育活動を進めることができた。恒例の田代岳登山は天候に恵まれず、残念ながら中止となったが、これまでと同様に登山ガイドや保護者ボランティアの皆様にも御協力いただき、万全の体制で実施する予定であった。今年度は、十ノ瀬藤の郷見学や地域団体と連携して学校農園活動にも取り組んでいる。引き続き、地域・保護者との連携を深め、一体となって教育活動を推進していきたい。

【年度（→次年度）】
年間を通して、本校の教育方針や学校行事における生徒の活動の様子について随時情報発信してきたが、前期と比較すると「4　そう思う」と回答した保護者の割合が減少している。後期は秋季総体での活躍や学校祭・合唱コンクール、なべっこなどの学校行事での様子の他にも、日常の生徒たちの様子についても伝えるようにしてきた。ブログへのアクセス数は前期よりも伸びてはいるものの、今後も学校教育への理解を得るため、伝える内容を吟味して保護者の目線に立った情報発信をすすめていきたい。
地域・保護者との連携については、肯定的な回答は多いものの、前期と比較すると「4　そう思う」の割合が減少している。地域の方々と連携して進めている地域ボランティアや学校農園活動、今年度から再開した大館きりたんぽまつりでの田っ中ソーラン演舞など、活動の幅は広がりを見せているが、今年度の活動を振り返り、課題を洗い直して来年度に向けて準備を進めたい。

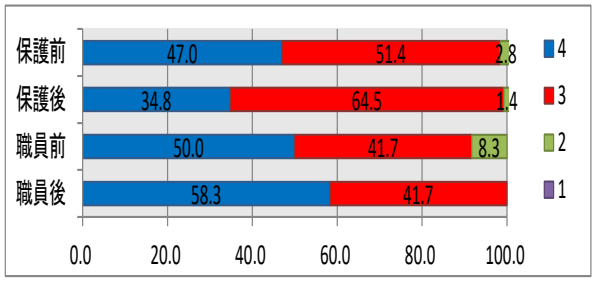
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期		自己評価B 後期	
12　情報の受発信と学校開放	(17)広報活動の充実と学校開放	・学校報、メールでの保護者への情報発信 ・HPを利用した地域社会への情報発信 ・学校開放の実践（保護者・地域）	4	3	4	3
13　地域の教育力の活用	(18)地域・保護者等と連携・協働した教育活動	・PTA活動の充実や地域学校協働本部事業の活用 ・地域及び学校間の連携・協働のための連絡調整と活動の促進	3		3	

（主なデータ）

1 保1　学校は教育方針や教育活動についてPTA総会、学校行事、学校報を通して分かりやすく伝えていると思われますか。
保2　学校は学校報、HPや学年通信等を通して、生徒の様子を積極的に情報発信していると思われますか。
職　学校の取組に理解協力を得るために積極的に情報発信していますか。



2 保　学校は、地域、保護者との連携を大切にした取組をしていると思われますか。（PTA、地域での活動等）
職　地域、保護者との連携を大切にした取組を心がけていますか。（PTA、地域での活動等）



【PTA学校図書整備ボランティア】

【小・中合同あいさつ運動】

【認知症サポーター講座】

【第2回地区ボランティア会議】

■データから見える成果と課題

1　教育方針や生徒の活動等に関わる情報発信ついては、100%近い保護者が肯定的に捉えている。教育活動や生徒の様子を学校報や学年通信、ブログ等の発信するとともに、緊急性を要する情報やお願い等については、時期を逃さずメール配信を行った。保護者の4の回答が減少しているが、引き続き、学校教育への理解を得るための広報の在り方については様々な視点から吟味し、充実させていきたい。

2　地域、保護者との連携については、学校図書整備に協力をいただいたほか、学校農園活動、キャリア講話、認知症サポーター講座、早口市日及びきりたんぽまつりでの田っ中ソーラン演舞、地区ボランティア等、新たに加えたものも含め、活動の幅が広がった。引き続き、地域や保護者の方々との連携・協働による教育活動の充実を図っていきたい。